

開成営農経済センターだより 令和6年7月

TEL 83-5165

今月の注文書等について
「みかん関連資材」「保有米袋・結束紐・コンバイン袋等」
「春植馬鈴薯種子」「ヒルノック W」
※お申し込みのお忘れがないようご注意ください。

7月の自己取り商品について
「防鳥資材」

令和6年7月18日(木)・19日(金)・20日(土)

9:00~15:00の間に取りに来てください。

(上記以外のご注文品は準備ができ次第、ご連絡いたします。)

技術顧問の日 (園芸相談)	農業の専門家が農作業の相談に応じます。 土曜日以外は在籍予定ですが、都合により不在の場合がございます。
お米の日	神奈川県産の玄米を特別価格で販売します。(毎月第2・第4火曜日) 7月9日・23日となります。

作物管理情報

【キウイフルーツ】

病害虫防除 7月上旬

○果実軟腐病 ナリアWDG 2,000倍 50g/水100ℓ 収穫前日 2回
○キウイヒメヨコバイ モスピラン顆粒水溶剤(劇) 2,000倍 50g/水100ℓ 収穫7日前 3回
カイガラムシ類
○カメムシ類発生時 スタークル顆粒水溶剤 2,000倍 50g/水100ℓ 収穫前日 3回

7月下旬~8月中旬

○キイロマイコガ フェニックスフロアブル 4,000倍 25ml/水100ℓ 収穫7日前 3回

夏季剪定 止め葉が出る6月中旬ごろより夏季剪定を実施し、棚下の明るさを維持しましょう。

*晴天の日で、土の表面にところどころ日が射す程度

乾燥防止対策 梅雨明け後の乾燥に注意。敷き藁や灌水を実施し、土壌の乾燥を防ぎましょう。

【いちじく】

病害虫防除 *下線が引いてあるものは重要防除です。必ず防除を行いましょう。

7月上旬

○アザミウマ類 モスピラン顆粒水溶剤(劇) 2,000倍 50g/水100ℓ 収穫前日 3回
ギボシカミキリムシ
カイガラムシ類

○疫病 ランマンフロアブル 2,000倍 50ml/水100ℓ 収穫前日 3回

7月下旬(梅雨明け後)

○ヒラアザミウマ コテツフロアブル(劇) 2,000倍 50ml/水100ℓ 収穫前日 2回
○さび病 トリフミン水和剤 2,000倍 50g/水100ℓ 収穫前日 3回
又はフルツバ - (注文取寄せ品) 1,500倍 66ml/水100ℓ 収穫前日 3回

土壌管理

いちじくの根は乾燥・過湿の両方に弱く、この時期の根の伸長具合が収量に大きく影響するので、梅雨期は排水し、梅雨明け後に乾燥が続く場合は灌水を10日に1回程度行いましょう。

*ただし、株枯病が発生している園では病気が蔓延する恐れがあるので、掛け流し灌水は行わない

【水 稲】

- 中干し 効果 ① 無効分けつを抑える ② 根の活力を高める ③ 倒伏に強くする
④ 田面を固くして秋のコンバイン等の作業性を高めるなど。

田面に軽くひびが入る程度を目安に、5日から1週間程度行います。(強い中干しはさける)
土壌中に酸素を送り根の健全な生育を促します。茎数が1株20本を超えたら実施しましょう。

追 肥 中干しが終わると、追肥の時期となります。

※元肥一発肥料を使用した場合には追肥の使用の必要はありません。

幼穂の長さが2cm前後になった頃を追肥時期の目安にしましょう。

はるみ・キヌヒカリ 出穂15日前頃 化成肥料 17-0-17 12kg程度/10a

てんこもり 出穂20日前頃 化成肥料 17-0-17 18kg程度/10a

施肥時期の目安(5月25日植えの場合)

はるみ・キヌヒカリ 7月22日前後 てんこもり 7月22日前後

葉色が濃い場合や茎数が多い場合は倒伏につながる為、追肥時期を遅らせ施肥量を減らしましょう。

出穂期の目安(5月25日植えの場合)

はるみ・キヌヒカリ 8月6日頃 てんこもり 8月11日頃

病害虫防除 7月中旬～下旬

- 紋枯病 リンバー粒剤 3～4kg/10a 収穫30日前 2回又は
モンカット粒剤 3～4kg/10a 収穫14日前 4回
出穂30日前～10日前に、株元にかかるよう散布
- イネツトムシ パダン粒剤4(劇) 3～4kg/10a 収穫30日前 6回 常発地区は必ず散布
- ニカメイチュウ 又は スミチオン乳剤 1,000倍 100ml/水100ℓ 収穫21日前 2回
- ヒメトビウンカ スミチオン乳剤 1,000倍 100ml/水100ℓ 収穫21日前 2回

※縞葉枯病の症状が出ている株を発見したら、株ごと抜き取り園外廃棄を行きましょう。

中後期除草に使用する2,4Dアミン塩について、有効分けつ終止期～幼穂形成期前まで、収穫60日前までとなっています。収穫前日数については十分注意しましょう。

カメムシ類について・・・近年発生が多くなっています。減収・品質低下を招きますので除草・薬剤散布を組み合わせることで防除を徹底しましょう。

〈雑草管理〉

○出穂前の畦畔の草刈りは出穂の10日前までに済ませましょう。

○出穂前の草刈後3週間程度で雑草が結実し始めます。1回目の防除後に直ちに畦畔の草刈りをしましょう。

○収穫前の畦畔草刈りは収穫期2週間前以降に行いましょう。

【8月上旬】 ・粒剤・豆つぶ剤 出穂7日後	カメムシ類	・スタークル粒剤(3kg/10a)	7日	3回
【8月中旬】 ・粒剤：豆つぶ剤 出穂21日後		・スタークル豆つぶ(250g/10a)		
・顆粒水溶剤 出穂24日後		・スタークル顆粒水溶剤 (2000倍 50g/水100ℓ 100ℓ/10a)		

【う め】

病害虫防除 7月中旬～下旬

○黒星病・環紋葉枯病 トップジンM水和剤 1,500倍 66g/水100ℓ 収穫21日前 3回

礼肥の施用 5月下旬～7月中下旬

(目的) 樹勢回復と翌年の花芽充実のため。一番重要な肥料なので、必ず施用しましょう。

梅配合 120kg/10a

※農薬名に網掛けがあるものは購入時に印鑑が必要となります。

——【温州みかん】——

病害虫防除 *下線が引いてあるものは重要防除です。必ず防除を行きましょう。

7月下旬～8月中旬

○黒点病 ジマンダイセン水和剤 600倍 166g/水100㍓ 収穫30日前 4回
又はペンコゼブ水和剤 600倍 166g/水100㍓ 収穫30日前 4回

○カイガラムシ類 コルト顆粒水和剤 3,000倍 33g/水100㍓ 収穫前日 3回
チャノキイロアザミウマ

○ミカハダニ・シソハダニ メビウスフロアブル(劇) 3,000倍 33ml/水100㍓
アザミウマ類・シソハダニ 収穫7日前 2回

樹別摘果 (大津・青島)

裏年の樹は7月中に全摘果しましょう。表年の樹は、この時期の摘果を控え、10月下旬からの仕上げ摘果で上を向いた極大果だけを摘果しましょう。

——【不知火・はるみ・湘南ゴールド】——

病害虫防除 黒点病の防除が重要となります。必ず行いましょう。

6月下旬～7月上旬

○かいよう病(単用散布) コサイド3000 2,000倍 50g/100㍓
(薬害軽減のためクレフノン200倍 500g/100㍓を加用)

7月上旬～8月中旬

○黒点病 ジマンダイセン水和剤 600倍 166g/水100㍓ 収穫90日前 4回
又はペンコゼブ水和剤 600倍 166g/水100㍓ 収穫90日前 4回

○ミカハダニ・シソハダニ メビウスフロアブル(劇) 3,000倍 33ml/水100㍓
アザミウマ類・シソハダニ 収穫14日前 2回

※カイガラムシ多発園は、コルト顆粒水和剤3,000倍 33g/100㍓ 収穫前日 3回を散布する。

摘果

*不知火・はるみは樹勢維持のため、生理落果が始まったら樹冠上部1/3から1/4を全摘果します。不知火は生理落果終了後に葉100枚に1果、はるみは7月下旬までに葉120枚に1果を目安に摘果します。

*夏季に乾燥を受けると高酸になりますので、灌水や敷き藁を行い、過乾燥を防ぎましょう。

*湘南ゴールドは7月20日時点で果実の横径が20mm以下(1円硬貨程度)と粗皮やス上がり果の発生しやすい表層成りの果実をシンニング(摘果)する方法が有効です。

——【レモン】——

病害虫防除 7月

○かいよう病・黒点病 コサイド3000 2,000倍 50g/水100㍓
又はイデクリーン水和剤 500倍 200g/水100㍓
(薬害軽減のためクレフノン200倍を加用する)

7月下旬～8月中旬

○黒点病 ジマンダイセン水和剤 600倍 166g/水100㍓ 収穫90日前 4回

○シソハダニ・アザミウマ類 メビウスフロアブル(劇) 3,000倍 33ml/水100㍓
チャノキイロアザミウマ 収穫14日前 2回

※コサイド3000、イデクリーン水和剤との混用は効果低減を招くのでしない。

※カイガラムシを多く見かけた場合は、コルト顆粒水和剤3,000倍 33g/水100㍓ 収穫前日 3回を散布する

※ジマンダイセンを散布できない場合は、キノンドー水和剤80 800倍 125g/100㍓ 収穫30日前 3回を散布する。

【かき】

病害虫防除 7月上旬～中旬 *下線が引いてあるものは重要防除です。必ず防除を行いましょう。

○フシコナカイガラムシ スミチオン水和剤40 1,000倍 100g/水100㍓ 収穫30日前 3回
カメムシ類・イラガ類

○うどんこ病・落葉病 ストロビードライフロアブル 3,000倍 33g/水100㍓ 収穫14日前 3回

カメムシ発生時の対策 7月上旬～10月下旬(夜間の飛来と加害が多いため、夕方に散布しましょう)

モスピラン顆粒水溶剤(劇) 4,000倍 25g/水100㍓ 収穫前日 3回

*カメムシは山林から飛来して加害します。農薬散布後も、園内を良く見回しましょう。

摘果 (肥大促進・翌年の花芽分化促進)

7月中旬までに1結果母枝に2～3果、1結果枝に1果を目安に摘果をしましょう。この時期に摘果し肥大促進させないと、以後の肥大が悪くなります。

【くり】

病害虫防除 6月下旬～7月下旬

カミキリムシ類 トラサイドA乳剤 200倍 500ml/水100㍓ 裂果前、但し収穫14日前 1回
葉にかからないように樹幹に散布します。

実炭疽病 ジマンダイセン水和剤 600倍 166g/水100㍓ 収穫7日前 2回

【お茶】

病害虫防除 *下線が引いてあるものは重要防除です。必ず防除を行いましょう。

6月下旬～7月上旬

○輪斑病・新梢枯死症 カスミンボルドー 1,000倍 100g/水100㍓ 摘採14日前 2回

※剪整枝後、出来るだけ早く(3日以内)散布する。

7月中旬～7月下旬

○チャノド、北刈パイ・チャゲ、コルト 顆粒水和剤 3,000倍 33g/水100㍓ 摘採7日前 2回
チャノド、北刈パイ

※夏整枝後、2週間を目安に散布する。

①二番茶を摘採した場合の管理

整枝作業

整枝時期 二番茶摘採10日後を目安に、遅れ芽が出揃うのを待ってから行いましょう。

整枝位置 二番茶の摘採面

※整枝を怠ると摘採面が不揃いになりやすく、来年の一番茶の減収を招きやすいので、必ず行いましょう。

②二番茶を摘採しない場合の管理

整枝作業

整枝時期 7月上旬を目安に、二番茶芽が出揃うのを待ってから行いましょう。

整枝位置 一番茶摘採面の2～3cm上で行いましょう。ただし、二番茶芽が病害虫の被害で十分に生育しなかった場合は、一番茶摘採面より数cm下で整枝します。

*整枝を怠ると芽数が少なくなり、株面の枝が不揃いになるため、来年の一番茶の減収を招くので、必ず行いましょう。

<注意> 農薬を使用する際は、適用作物・希釈倍数・使用回数・使用方法等の使用基準を遵守するとともに飛散防止に努め、ラベルをよく確認し、必ずラベルに基づいて使用しましょう。

・「収穫〇日前」：定められた使用時期。記載されている収穫前日数まで散布ができます。(前日は24時間前)

・「回数」：農薬成分の総使用回数のこと。栽培期間中、何回散布可能か確認しましょう。

※店舗により農薬の在庫状況が異なります。記載の農薬を購入される場合は事前に在庫確認をしていただくとスムーズに購入できます。